

東京圖書館
 新門 二〇
 部 〇一
 類 五
 架 天
 函 〇二
 號 三カカ

2/60
 4
 976

經濟叢書

第十 第九 第八 第七
 瑞典國 露西亞國 葡萄牙國 伊太利國
 十歐 夕羅 國巴 歲入 出豫 算論 前號ノ續キ

第二號

大藏省翻譯課刊行

203024-000-2

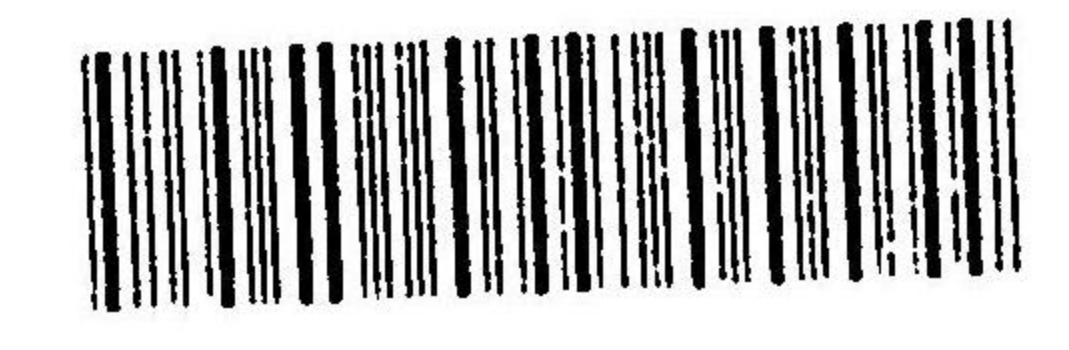
特54-686

經濟叢書 第2号

バロン・ヘンリー・フォン・シーボルト
 /述

M11

EDI-0025



例言

一此書ハ原ト經濟理財ニ涉ル諸家ノ論說報告等ヲ我財務ノ參考ニ供センカ爲メニ譯出セシモノニシテ廣ク世ノ裨益ヲ謀リ逐次之ヲ上梓ス但其文辭ノ如キハ苟モ意義纒ニ通スルニ取リ充分ノ校正ヲ經サルモノナレハ或ハ前後彼此整一ナラサルノ嫌アルヘシ且ツ此書載スル所純駁一ナラス編次叙ナシ冀ハクハ讀者ノ簡別センコトヲ

經濟叢書

(第二號 明治十一年十月十五日發行)

パロン、ヘンリー、フオン、シーボルト 述

鬼頭 悌次郎 譯

第七 伊太利國ノ豫算

伊太利國ノ會計年度ハ一月一日ニ始リ十二月三十一日ニ終ルモノトス
毎年三月初頭ノ二週間以内ニ大藏卿ハ其翌會計年間ノ豫算書ヲ議院ニ差出スモノトス

此豫算書ヲ分割シテ十部ト爲シ一部ハ以テ歳入ニ係リ他ノ九部ハ以テ歳出ニ係ルモノトス是レ諸官廳ノ數ニ應シテ之ヲ類別セルナリ又各部ヲ細別シテ數條ト爲シ以テ可成丈ケ精細詳明ナランコトヲ要ス

此豫算書ハ上下兩院ノ許允ト國王ノ勅許ヲ受ケ且ツ翌年一月以前ニ人民へ布告セサル可ヲサルナリ

豫算書ノ各部ヲ分割シテ二項ト爲シ一ハ以テ定額ノ歲入歲出ヲ掲ケ

一ハ以テ額外ノ歲入歲出ヲ載スルモノトス

凡ソ豫算書中各部ノ始メニ一篇ノ報告書ヲ載セ以テ年々相生スル處

ノ變化等ヲ明示ス

伊太利國大藏卿ハ尙ホ又三月初頭ノ二週間以内ニ前年十二月三十一

日ヲ以テ終リタル會計年度ノ歲出入決算書ヲ上下兩院ニ差出スモノ

トス

此決算書ヲ分割シテ歲出入ノ數欸ト爲シ以テ同年ノ豫算ト此決算ト

ヲ比較シ過不足ヲ明ラカニス

大藏卿ハ此決算書ヲ差出スニ際シ亦前年十二月三十一日ヲ以テ終リ

タル會計年度ニ係ル會計ノ實況ヲモ報告スルモノトス

下院ニ於テハ其集會ノ始メニ當リ豫算調査掛ノ委員ヲ撰擧ス但シ此

委員ハ其員數三十名タリ

此調査掛ノ委員ハ豫算決算ノ兩書トモ渾テ之ヲ詳密ニ調査點檢シ増

減若クハ如何ナル變更ヲモ其至當適宜ト見做ス所ノ者ヲ申立ツルハ

其權内ニアリ而シテ之ヲ下院ニ報告スルモノトス

下院ニ於テ調査討論ノ際各議員ハ亦増減變更等ヲ發言スルコトヲ得ヘ

シ但シ此等ノ事ニ付テハ渾テ衆議ニ付シ決ヲ多數ニトルモノトス

豫算決算書トモ兩ツナカラ下院ニテ調査ヲ遂ケタル上ハ直チニ之ヲ

上院ニ差出スモノトス是ニ於テ上院ハ十五名ノ會計事務掛ノ委員ヲ

撰舉シ再ヒ之ヲ詳密ニ調査點檢セシム
此會計事務掛ノ委員一應調査セシ上ハ之ヲ上院ニ出シ衆議ニ付ス但
シ上院ノ各議員ハ豫算決算ニ關シ各其見込ヲ發言スルコトヲ得ルハ下
院ノ議員ト同權タリ

第八 葡萄牙國ノ豫算

葡萄牙國ニ於テハ毎年上下兩院集會ノ始メニ臨ミ大藏卿ハ其年度ノ
歳出費ニ係ル豫算書ヲ差出スモノトス
上下兩院ハ各自委員ヲ撰舉シ以テ此豫算書ノ諸條款ヲ調査點檢セシ
ム
此豫算書ヲ分割シテ數項ト爲シ以テ各官廳(即チ内務、文部、大藏、司法、
教部、陸軍、海軍、殖民地事務局、外務、工部、勸商、勸農等)ノ費目ヲ區別ス

ルモノトス

此調査掛ノ委員ヘハ各自擔任シテ調査スベキ部分ヲ付與シ以テ豫メ
之ヲ參考熟慮セシムルモノトス

此調査掛ノ委員ハ豫算書ヲ點檢スルノ際若シ書中申立ノ費目ニ就キ
事由ヲ質問スルヲ要用トスルハ其廳長官ノ出頭ヲ要求シ親ク之ヲ
質問スルコトアルベシ

サテ調査掛ノ委員ハ各官廳ヨリ申立ノ費目ヲ悉皆拒絕スルカ若クハ
之ヲ許允スルカ又ハ之ニ變更ヲ加フレバ其報告書ヲ添ヘテ之ヲ下院
ニ差出シ同院ノ衆議ニ付スルモノトス

此豫算調査掛ノ委員ガ仮令ヒ歳出費減省ノ事ニ付キ何様ノ決議ヲ爲
ス下院ノ衆議ニテ改正セラル、コトアリ然リト雖モ政府即チ各官廳

ニテハ之ヲ改正スルノ權ナシ尤モ政府ガ直接ノ關涉ヲ有スルハ只下院ノ衆議ニ臨ミ均シク其席ニ列シテ發言スルヲ得ルニアル而已然リト雖モ此際政府ハ其申立ノ件々ヲ飽クマデ主張シテ變セス其利害得失トモ其責ニ任スルモハ佞令ヒ下院ノ衆議之ヲ非トスルモノ多シト雖モ其持論ヲ變セスシテ見込ヲ貫徹スルコトアリ抑此調査掛ノ委員ハ其事務施行上ニ於テ獨立タルコトヲ証明スル特別ノ規程ナシ畢竟其獨立ノ如何ハ委員ヲ撰舉スル上下兩院設立ノ性質ニ依レリ是ヲ以テ若シ上下兩院ノ事ヲ處スル多クハ政府ノ意ヲ奉迎シ各官廳ノ長官ニ左袒シ却テ之ガ抑壓ヲ受クルノ勢アルモハ調査掛委員ノ獨立ヲ保ツアタハザルヤ亦明ケシ之ヲ樂スルニ是マテ時々歳出費ノ減省アリシハ政府ノ致ス所ニ因ル

モノ多シ尤モ平素上下兩院ハ歳出費ノ事ニ關シ飽クマデ其意見ヲ述ベ能ク之ヲ總理シ大ヒニ實効ヲ奏セリ然レモ之カ爲メニ往々困難ヲ生セシコトアリシ前キニ千八百六十七年ト千八百七十一年トニ於テハ引續キ兩回マテ下院ヲ開キタリシコトアリシモ各官廳ヨリ申出セシ租稅増加ノ許可ヲ拒ミ反テ困難ヲ生セシ事アリ是即チ其一証ナリ下院ノ舉動斯ノ如キヲ以テ諸官廳ノ長官大ニ威權ヲ失テ退職セシコトアリ此ニ至リ人民漸ク國ノ危急ヲ洞察シ到底租稅ヲ増加シ各自ヨリ出ス所ヲシテ一層多カラシムルニアラザレバ他ニ全國會計上ノ窮迫ヲ救フノ道ナキコトヲ了知シ更ニ亦下院ヲ開ヒテ賦稅ヲ増加スルコトヲ許可セシムルニ至レリ

第九 露西亞國ノ豫算

露西亞國ニ於テハ曾テ議院ノ設ケナキヲ以テ隨ツテ其歲出費ノ事ニ就キ議院ノ總理ヲ受クルコトモ之ナシ故ニ同國ノ豫算組立ノ法制ハ即チ左ノ如キモノナリ

露西亞國ノ會計年度ハ曆年ト相符合スルモノニシテ即チ一月一日ニ始マリ十二月三十一日ニ終ルモノトス

各官廳ノ豫算書ヲ分割シテ數項ト爲シ尙ホ更ニ之ヲ小別シテ數款トナスモノトス

凡ソ各官廳ノ長官タル者ハ會計年度中ニアリテ同項中ナレバ甲款ノ金額ヲ轉シテ乙款ニ移スモ妨ケナキノ權ヲ有スト雖モ甲項ノ費目ヲ轉シテ乙項ニ流用スルノ權ヲ有セサルモノトス尤モ事實己ムヲ得ス甲項ノ費目ヲ乙項ニ轉用セザルベカラサルノ場合ニ於テハ其事由ヲ

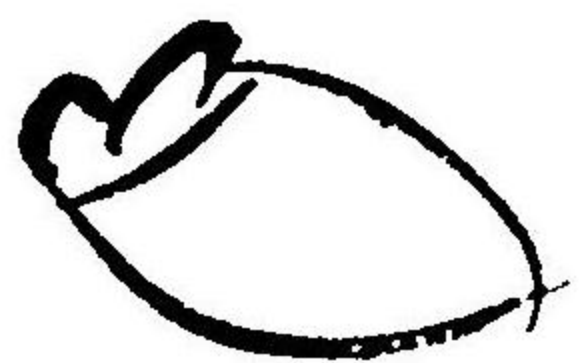
開申シ以テ大政府ノ許可ヲ請ハサルヘカラス

毎年豫メ期限ヲ定メ各官廳ニ於テ各其豫算書ヲ編製スヘキモノトス但シ豫算書ヲ製スルニハ一定ノ式アリ

斯ノ如ク各官廳ニ於テ夫々豫算書ヲ編製シテ差出スノ成規ナルカ故ニ毎年八月ヨリ十月マテニ各官廳ノ豫算書ハ陸續大政府ヘ到達スルモノトス

此等豫算書差出シノ順序ハ調査ノ順ニ依リテ前後アリ官廳ノ小ナルモノハ最初ニ調査スル所トナリ彼ノ陸軍、海軍、工部、王領ノ如キ稍々大ニシテ一層錯雜アルモノハ最後ニ調査スル所トナルナリ

抑露西亞國ノ大政府ナルモノハ同國ノ大政ヲ掌トル最上有權ノ公會ニシテ則チ同國ノ立法官タリ其議員ハ奉職年限ヲ終身ト定メ國帝ヨ



リ命任スルモノトス

平素大政府ヲ分ツテ數局ト爲シ各局其主任ノ事務ヲ舉行シ此内一局ハ全國經濟事務局ニシテ凡ソ全國ノ理財ト貿易ニ關スル百般ノ建白デバアイトメントホフスライトイコンミ其外ヲ調査シ各官廳ノ豫算書モ此經濟事務局ヘ差出スモノトス各省ニ於テハ其豫算書ヲ編製シテ之ヲ此經濟事務局ニ差出スノ際尙ホ其豫算書若干部ヲ大藏卿ト検査事務總裁トニ差出スベキモノト區大藏省ト検査局ニ於テハ詳密ニ此等ノ豫算書ヲ調査シ覺書即チ質問書ヲ製シテ其意見ヲ精密ニ記載シ之ヲ各省ニ送リテ以テ一週間以内ニ其答辨ヲ得ルモノトス

然ル後大藏省ト検査局ハ検査事務總裁ノ面前ニ於テ豫算書ノ調査ニ著手シ歲入ト歲出トニ係ル各項各款ヲ調査シ各官廳ヨリ申出ノ通り

之ヲ許允スルカ若クハ之ニ變更ヲ加ヘテ議決スルモノトス

然ルニ若シ各官廳ト論議齟齬シテ一決セサルハ之ヲ大政府ニ出シ同府ニ於テハ衆議ニ依リ之ヲ裁決スルモノトス然リト雖正右様ノコハ甚タ稀レニシテ總テ經濟事務局ニ於テ決定スルヲ多シトス

大政府ノ各議員タル者ハ各官廳ヨリ差出シタル豫算書ト其豫算書ニ就テ大藏卿并ニ検査事務總裁ノ陳述セシ意見書ト經濟事務局ニテ豫算書中各款ニ就キ衆議討論セシ次第ヲ具載セシ日誌ノ刊行セシモノ一部ツ、ヲ受取ルモノトス

又大政府ノ各議員タル者ハ豫算書中ニ就テ所見アレバ則チ之ヲ經濟事務局ニ申出ルコトヲ得ヘシ然レ正所見ヲ申出ルハ至テ稀レナリトス凡テ歲出入豫算書ナル者ハ經濟事務局、大藏卿及ヒ検査事務總裁ノ協

議ニ依リ一決スル時大藏卿ハ全國ノ總豫算書ヲ編製シ以テ歲出入中
重立タル條款ヲ略載スルモノトス

此豫算書ハ十二月中旬頃特ニ日ヲ期シ大政府ノ總議員集會ノ上ニテ
之ヲ討論スルモノトス但シ此豫算書ト共ニ前年間ニ係ル検査事務總
裁ノ決算書ト大藏卿ノ金穀出納帳トヲ添テ差出スナリ

仮令ヒ斯ノ如ク大政府ノ總議員集會ノ上ニテ討論スルト雖モ之カ爲
メニ實際豫算書中ノ金員ヲ増減スルコトハ稀レナリトス右ハ己ニ經濟
事務局ニテ時日ヲ費シ苦辛シテ之ヲ調査討論セシ後漸ク改定スル所
ニシテ其上尙ホ又大政府ニ於テ之ヲ再查討論ス是レ大ヒニ有益緊要
ノモノタリ今試ミニ其一ニヲ舉レハ廣ク豫算額ノ事ニ付キ多寡ヲ評
論シ意見ヲ陳述シテ以テ一定ノ成規ト爲シ翌年度ノ豫算書編製ノ際

之ヲ踐行セシムルコト豫算書中ノ疑團ヲ氷解シ一目瞭然ナラシムルコ
ト誤謬ノ廉々ヲ改正スルコト文意完全ナラザル廉ヲ増補シテ明了ナラシ
ムルコト理財運用ノ法如何ニ關シ其全局若クハ若干ノ廉ニツキ抗論辨
解スルコト等是レナリ

此豫算書ハ大政府ニ於テ衆議ヲ以テ決定セシ上ハ大藏卿ヨリ之ヲ皇
帝ニ奏上シ皇帝ノ勅許ヲ得テ以テ一定ノ法令トナスモノナリ

凡ソ大政府ニ於テ豫算書ノ事ニ關セル處分ハ全ク獨立ニシテ其討論
スル所ハ曾テ掣肘セラル、コナク其發議決定スル所ハ廢止セラル、
コナシ

大政府ノ議員權ヲ有スルコト夫レ斯クノ如ク大ナリト雖モ凡ソ其議員
タル者ハ歲出費増加ノ事ニ關シテハ決テ論端ヲ開キ發言ヲ爲スコトナ

キノ習慣アリ實ニ此ノ習慣ハ良善無事ノ一法タリ
 凡ソ全國收税ノ法ト公金使用ノ法トヲ管理視察スルカ爲メ特ニ検査
 局ナルモノヲ設ケ置キ一切全局ヲシテ此任ヲ掌トラシムルモノト区
 抑此検査局ナルモノハ英國ニ於ケル検査局ノ如ク大藏省中ノ一分局
 ニアラス又佛國検査局ノ如キ体裁ニモアラス全ク他官廳ニ模擬シ組
 立テタル一種ノ官廳ナリ其長官ハ内閣大臣一名ヲ以テ之ニ充テ之ヲ
 検査事務總裁ト稱ス
 凡ソ露國ニ於テハ各州ニ検査局ナルモノ一ヶ所アリ全國ノ検査局六
 拾ヲ以テ數フ
 此等六拾ヶ所ノ検査局ハ皆ナ其地ノ地方長官トハ全ク隔離シ獨立ナ
 レル地方ノ長官ハ位ノ上下官ノ高低ヲ問ハス凡テ皆ナ検査事務總裁

ノ直轄ヲ受クルモノトス
 各州及ヒ各郡ノ諸出納局并ニスペシヤール、レシイピング、オツヒイ区
 (税關郵便役所、電)ニ於テハ凡ソ金穀ニ係ル諸証書類ハ支出ニ係ルモノ
 信局裁判所等)ニ於テハ凡ソ金穀ニ係ル諸証書類ハ支出ニ係ルモノ
 モ收入ニ係ルモノモ一切其地ノ検査局ヘ差出スベキ成規トス但シ其
 諸証書類ニ付テ検査局ヨリ質問ヲ受クレハ一々之ニ應答スルモノト
 ス
 尙ホ又検査局ニ於テハ其調査センコトヲ要スル諸帳簿往復書ノ類ハ凡
 テ何物ヲ問ハス其管轄内何レノ地方廳ヨリモ之ヲ差出サシムルノ權
 ヲ有ス
 且ツ検査局ハ獨リ公金ノ取扱方ヲ監督規察スル而已ナラス尙ホ又糧
 食、武器、衣服、砲臺、造船所、礦山等ノ如キ取扱ヲモ監督スルモノトス

キノ習慣アリ實ニ此ノ習慣ハ良善無事ノ一法タリ
 凡ソ全國收税ノ法ト公金使用ノ法トヲ管理視察スルカ爲メ特ニ検査
 局ナルモノヲ設ケ置キ一切全局ヲシテ此任ヲ掌トラシムルモノト区
 抑此検査局ナルモノハ英國ニ於ケル検査局ノ如ク大藏省中ノ一分局
 ニアラス又佛國検査局ノ如キ体裁ニモアラス全ク他官廳ニ模擬シ組
 立テタル一種ノ官廳ナリ其長官ハ内閣大臣一名ヲ以テ之ニ充テ之ヲ
 検査事務總裁ト稱ス
 凡ソ露國ニ於テハ各州ニ検査局ナルモノ一ヶ所アリ全國ノ検査局六
 拾ヲ以テ數フ
 此等六拾ヶ所ノ検査局ハ皆ナ其地ノ地方長官トハ全ク隔離シ獨立ナ
 レモ地方ノ長官ハ位ノ上下官ノ高低ヲ問ハス凡テ皆ナ検査事務總裁

ノ直轄ヲ受クルモノトス
 各州及ヒ各郡ノ諸出納局并ニスベシヤール、レシイピング、オツヒイ区
 (税關郵便役所、電)ニ於テハ凡ソ金穀ニ係ル諸証書類ハ支出ニ係ルモノ
 信局裁判所等)モ收入ニ係ルモノモ一切其地ノ検査局ヘ差出スベキ成規トス但シ其
 諸証書類ニ付テ検査局ヨリ質問ヲ受クレハ一々之ニ應答スルモノト
 ス
 尙ホ又検査局ニ於テハ其調査センコトヲ要スル諸帳簿往復書ノ類ハ凡
 テ何物ヲ問ハス其管轄内何レノ地方廳ヨリモ之ヲ差出サシムルノ權
 ヲ有ス
 且ツ検査局ハ獨リ公金ノ取扱方ヲ監督規察スル而已ナラス尙ホ又糧
 食、武器、衣服、砲臺、造船所、礦山等ノ如キ取扱ヲモ監督スルモノトス

此外又検査局ハ各地ノ諸出納局ト前述スベシヤール、レシイピング、オ
 ヲヒイ区ニ就テ臨時検査ヲ爲シ、税關郵便役所等ヲ監視スルノ權ヲ有
 ス
 凡ソ検査局ニ於テハ諸証書類調査ノ際租税徴收ノ法果シテ至當ナリ
 シヤ公金及ヒ公用物品トモ成規ニ照準シテ遣拂フタルヤ否ヤヲ點檢
 スル而已ナラス尙ホ且ツ其取扱方ノ可否ヲモ詳細ニ取調ヘ以テ至當
 ノ契約ヲ踐行セシヤ否ヤヲ點檢シ又帝王ノ所有地山林礦山其外共取
 扱ノ法至當ナルヤ否ヤ海關税國產税及ヒ其他諸税共期限ヲ違ヘス收
 納セシヤ否ヤ凡ソ此類凡百ノ事ヲ調査スルモノトス
 然ルニ若シ此調査ノ際犯則ノ遣拂ヲ爲シタルコト若クハ拂戻ノ税犯則
 タルコト發露スルハ検査局ヨリ其金額ヲ請求シテ取戻スモノトス然

シテ若シ此犯則ノ官吏之カ辨償ヲ肯ンゼザル時ハ則チ之ヲ検査局ニ
 出シ時宜ニ依レハ之ヲ大政府ヘ出シテ裁斷ヲ仰クコトアリ
 凡ソ各地方ノ出納局ハ各地ノ検査局ニ對シ關係ヲ有スルコト前文ノ如
 シト雖モ各省ノ長官并ニ各省ハ更ニ之ト關係ヲ有セザルモノトス
 凡ソ検査局ノ直令ニ依リ遣拂フタル諸歳出費ハ一切露京シント、ペイ
 トルスボルグ府ニアル中央検査局ニ於テ之ヲ再査スルモノトシ其他
 ハ前書ノ如キ手續ヲ以テ之ヲ處分スルモノトス
 抑検査局ハ之ヨリ前キ第一世アレキサンドル帝支配以來創立スル所
 ニ係リ爾來今日ノ久シキニ至ルマデ依然相存シ今ノ國帝ニ至リテ更
 ニ之カ法制ヲ一變シテ完全缺クル所ナキニ至レリ請フ試ミニ之ヲ述
 シ

夫レ露國ニ於テ今帝ノ支配ニ至ル迄ハ各官廳ニテ編製セシ勘定帳ヲ
 検査スルノ成規ナリシカ此制ヲ改メ更ニ新法ヲ用ヒ其勘定帳ヲ検査
 セスシテ只其金穀出入ノ諸証書類ヲ検査スルニ至レリ是レ舊制ト
 新制ト大ヒニ相異ナル所ナリ

歐洲諸國多クハ現今ニ至ルマテモ勘定帳而已ヲ検査スルノ成規ニシ
 テ英佛獨等ノ如キ比々皆然リ

露國ハ斯ノ如ク舊制ヲ改メ新制ヲ布キ検査局ニ於テハ凡ソ歲出費ノ
 相生スルヤ直チニ之ヲ調査點檢スルヲ以テ假令ヒ如何ナル欺詐狡智
 ヲ働クモ検査局ヲ欺キ得ル能ハズ何トナレハ検査局ハ一冊ノ勘定帳
 ヲモ調査セスシテ金穀出入ニ係ル諸証書類ノ原書ニ就キ自カラ勘定
 帳ヲ編製スルヲ以テナリ但シ此等ノ諸証書類ハ出納局ニテ公金ヲ拂

出スヤ否ヤ直チニ之ヲ検査局ニ送付スルモノトス

前文ニ開陳セシカ如ク諸証書類ノ原書ニ就テ編製セシ検査事務總裁
 ノ勘定帳ハ即チ之ヲ出版ニ付シテ以テ充分信ヲ置クニ足ルベキモノ
 トス

此勘定帳ハ極メテ大部ノモノトナラサルヲ得ス然レモ此勘定帳ニ就
 キ検査事務總裁ノ編製セル報告書アルヲ以テ實際照查ニ便ナルモノ
 トス但シ諸証書類ヲ收集スル爲メ大ヒニ時日ヲ費ヤスカユヘ此勘定帳
 ノ編製ヲ了ルハ甚タ遅シトス尤モ歲入若クハ歲出ノ數款トモ豫算結
 了セルノ後三ヶ月以内ニ増減スルヲ得ルモノトス

抑露西亞ハ版圖廣大ノ一帝國ニシテ試ミニ其國各地方ノ出納局ヲ數
 フレハ各州各郡ノ出納局合セテ六百ヶ所余アリ尙ホ此外三千ノ云ベ

シヤール、レシイピング、オツヒイ、区アリ

凡ソコーカシ区、トルキスタ、東西シベリヤ、ムル等此外各州ノ検査局ヨリ其勘定帳ヲ差出スニハ數ヶ月ヲ經過セサルヲ得ス今試ミニ之ヲ例セハ此等各州ノ勘定帳ノ千八百七十四年ニ係ルモノハ千八百七十五年十月一日ニ至リテ漸ク大政府ヘ到達シ而シテ此勘定帳ニ就テ検査事務總裁ノ編製セル報告書ハ其後一ヶ月ヲ過キテ成ルモノト区検査事務總裁ハ斯ノ如ク勘定帳ニ就テ報告書ヲ編製シ之ヲ大政府ヘ差出スノ外ニ毎年特別ノ報告書ヲ編製シテ之ヲ國帝ヘ奉上スルモノトス但シ此報告書中ニ載スル所ハ前年間ノ歲出入各項中重モナルモノニ就テ其所見ヲ開陳シ凡ソ検査局ニテ發見セシ惡弊陋習ヨリ不適當ノ取扱等ヲ詳記スルモノニシテ此等ハ殊ニ國帝ノ注目ヲ要スルモノトス

ノトス

國帝ノ此報告書ヲ得テ自筆ヲ以テ之ニ所見ヲ付シ親裁スル所ノモノハ官吏ヲシテ公金ノ管理上ニ於テ益々規程ヲ踐ミ節省ヲ主トシ務メテ至當至正ナラシメンカ爲メニ最大有力ノ規矩トナルナリ

試ミニ露國ノ歲出費ニ就テ實況ヲ探求スルニ其増加實ニ急且ツ速ナリ近ク例ヲ引テ之ヲ証センニ是迄僅々五ヶ年間ニアリテ歲出費ノ増加セシ一千八百七十年ニ比スレハ千八百七十四年ノ増加ハ實ニ壹割壹分ト四分ノ三ノ割合ナリ

抑斯ク歲出費ノ増加スル所以ハ其原因一ニシテ足ラス今其一ニテ舉クハ物産ヲ出ス地方ニ鐵道ヲ開キ却テ其物産ノ價ヲ非常ニ騰貴セシメ之ヲ費耗スルノ土地ニ於テ其價モ均シク騰貴セシ一夥多ノ學校

ヲ増築シテ以テ在來ノ分ニ加ヘシテ數ヶ所ノ(在來ノ分ヨリ一層費用モ多ク隨テ又裁判ノ法一層良善ニ至リタル)裁判所ヲ新築セシテ等是レナリ

斯ノ如キ狀勢ナリシヲ以テ是迄五ヶ年間ニ於テ文部省ノ豫算額増加セシテ實ニ三割。司法省ノ豫算額増加セシテ貳割ニ至レリ

前五ヶ年間歳出費ノ増加セシテ夫レ斯ノ如シト雖モ顧ミテ其歳入ノ増減如何ヲ觀レハ均シク五ヶ年間ニアリテ其増加セシテ實ニ壹割六分ノ割合ナリ是レ假令ヒ租稅ヲ増加セシニアラスト雖モ獨リ酒稅ヲ増セシニ因ルナリ唯雜稅ノ如キハ一層歳入額ヲ増加セント欲シ之ヲ改正シテ以テ課賦ヲ輕クセリ

此外又各官廳ノ補填額ノ如キモ非常ニ減少シ千八百七十年ニ於テハ

三千五百八拾萬ル一ブル(凡ツ七十五セ)ナリシモ千八百七十四年ニ

至テハ貳千三百七拾萬ル一ブルニ及ヘリ

斯ノ如ク歳入漸ク減少シ歳出愈々増加ノ勢アリテ不足ヲ告クルノ時日久シカリシモ五ヶ年以來露國大藏省ハ千五百萬ル一ブルノ金額ヲ所有セリ即チ此千五百萬ル一ブルノ金額ハ前五ヶ年間歳入ノ歳出ヲ償フテ尙ホ餘リアリタルモノナリ畢竟斯ノ如キ結果ヲ生スルハ經濟事務局、大藏省、検査局ノ三者ニ於テ各官廳ノ豫算額ト額外用費トヲ嚴密ニ推究査問スルニ因ルヲ以テナリ

斯ノ如ク推究査問ノ法嚴且ツ密ナルヲ以テ各官廳ノ長官ヲシテ一層謹慎意ヲ注カシメ隨テ又其屬官ヲシテ尙ホ能ク成規ヲ遵奉履踐セシメ且ツ不正ノコナカラシムルニ至レリ

露國ニ於テ其歲出費ヲ抑制センカ爲メ兩三年以前大藏卿ノ建白ヲ以テ一種特別ノ法制ヲ設ケタリ試ミニ之ヲ述ン

凡ソ海陸軍ノ豫算ハ豫メ五ヶ年分ヲ若干額ト定メ置キ決シテ此定額ヲ超過スルコトヲ嚴禁スルノ成規ヲ設ケシコト是レナリ

斯ル法制ヲ設ケシヲ以テ大藏省ニ於テハ海陸軍ノ如キ巨額ノ歲出費ヲ要求スルモノヲシテ一時之ヲ増加セシムルノ患ヒ之ナシトス

假令ヒ斯ノ如キ法制ヲ設ケ僅カニ能ク海陸軍ノ歲出費ヲ抑制シ得ルモ露國ノ如ク未タ民撰議院ノ設ケ之ナキノ政府ニ於テハ他官廳ノ歲出費年々只増加スル而已ニシテ減少スルコトナキヤ疑ヲ容レス

第十 瑞典國ノ豫算

瑞典國ノ會計年度ハ一月一日ニ起リ十二月三十一日ニ終ルモノトス

凡ソ各官廳ノ長官タル者ハ國憲ノ趣旨ヲ遵奉シ上下兩院集會ノ初メニ臨ミ其翌年度ノ豫算書貳部(各院へ一部ツ、)ヲ差出シ以テ歲出費并ニ會計ノ形況等ヲ申出スモノトス

瑞典國ニ於テハ歲出費ヲ分ツテ九項ト爲ス即チ左ノ如シ

- 官內定額
- 司法定額
- 外務定額
- 陸軍定額
- 海軍定額
- 工部定額 (鐵道其外)
- 大藏定額 (租稅局其外)

文部定額 (教育、學術其外)

養老銀額

ペンション

斯ノ如ク大別シテ九項ト爲スノ外尙ホ之ヲ小別シテ數條數款トナシ以テ一々兩院ノ許允ヲ得ルヲ要スルモノトス凡ソ公費ニ關スル事件ニシテ政府ノ豫算書中ニ記載ナキモノハ上下兩院集會ノ間何時ニテモ各官廳ノ長官ヨリ之ヲ差出スヲ得ルモノトス

凡ソ歲出入ノ事ニ關シ政府ヨリスルモノハ總テ何事ニ限ラス皆ナ其關係アル官廳ノ長官ヨリ差出シタル説明書ヲ添ヘテ之ヲ國王ニ上奏シ以テ國王ノ裁決ヲ仰カサルベカラズ是ヲ以テ國王ハ歲出入豫算書ノ事ニ關シ之ヲ裁決スルノ權アリトス

尤モ上下兩院モ亦之ト同權ヲ有スルモノニシテ兩院ノ内何レノ議員ニテモ之ヲ許可スルヲ發言スルヲ得ルモノナリ但シ之ヲ發言スルハ開院ノ日ヨリ十日以内ニ限ルノ成規トス

凡ソ政府又ハ兩院ノ各議員ヨリ兩院ノ許可ヲ得ンカ爲メ申出セシモノハ總テ何事ニヨラス兩院ニテ直チニ之ヲ討論裁決セスシテ先ツ之ヲ會計委員ニ附スルモノトス會計委員ハ之ニ就テ其所見ヲ述ヘ以テ再ヒ兩院ニ差出スナリ

抑此會計委員ナルモノハ其員數ヲ貳拾四名ト定メ各院ノ議員中ヨリ十二名ツ、ヲ撰舉シテ命任スルナリ

此會計委員タル者ハ政府ノ諸帳簿及ヒ其日記ノ類ヲ點檢調査シ以テ政府若クハ各議員ノ申出ニ就キ其決議スル所ヲ兩院ニ報スルモノト

ス但シ之ヲ報スルニハ其申出ヲ可否シテ決議セル理由ヲモ併セテ陳述スルモノトス

又會計委員ハ此等政府并ニ各議員ノ申出等ニ就キ變更ヲナサシムルヲモアルモノトス

凡ソ會計委員タル者ハ此等ノ決議ヲナスニ臨ンテハ諸條諸款トモ悉皆綿密詳細ニ之ヲ調査思考スルモノトス

會計委員ハ調査スルニ從テ各項毎トニ其決議ヲ兩院ニ照會ス是レ時間ヲ省キ事務ノ整理ヲ保ツカ爲メナリ但シ兩院ノ集會將サニ終ラントスルニ臨ミ會計委員ハ「ナンスベタン」ケンデツ止ナルモノヲ兩院ニ差出シ以テ衆議員ノ參考ニ供スルモノトス(但シ「ナンスベタン」ケンデツ止トハ兩院ニ於テ豫算書ノ事ニ付テ討論ノ後決議セシ所ニ

據リ全國歲出入費等ヲ一切詳記セシモノヲ云フナリ)

凡ソ會計委員ハ公費ノ事ニ付テハ苟モ裁決ノ權ヲ有セサルモノニシテ唯之ヲ查問スルノ權アル而已

兩院ハ會計委員ヨリ之ヲ受取り以テ各款毎トニ之ヲ再議シテ其可否ノ裁決ヲ下スモノトス

政府ヨリ派遣セル委員ハ兩院ニ出テ其兼テ申出セシ所ノモノニ付テ答辨スルノ權ヲ有シ且ツ兩院ニ於テ之ヲ變更セントスルモ之ニ抗論スルノ權ヲ有スルモノナリ

政府ノ委員權ヲ有スル「夫レス」ノ如シト雖凡ソ公費ノ事ニ付テハ裁決ノ權獨リ兩院ニ屬スルモノトス尤モ從來官廳ニテ許允ヲ得現ニ存在スル費目ニシテ俄カニ之ヲ減少シ是カ爲メニ從事スル事業ヲ半

途ニ廢スルノ場合等アレハ國王ノ允准ヲ得サレハ減少スルヲ嚴禁スルモノトス

凡ソ豫算書ノ事ニ付テハ上下兩院ノ所見相符合スルモノヲ以テ兩院ノ決議ト爲ス然ルニ若シ兩院ノ決スル所相反對シ上院ハ之ヲ可トシ下院ハ之ヲ否トシ會計委員ヨリ何等ノ申立ヲナスモ所見相符合スルヲ得サルハ各院ニテ其爭論ノ事件ニ付キ別ニ投票ヲ爲スモノトス

斯ノ如ク兩院ニテ別ニ投票セシモノヲ一所ニ集拾シ數ノ多キモノヲトリテ以テ兩院ノ裁決トナス但シ投票ノ數上下兩院同數ナルノハ不都合ナカラシメンカ爲メ豫メ下院ニテ別ニ一ノ投票ヲ爲シ之ヲ封印シ置キ若シ投票ノ數兩院相均シキハ更ニ之ヲ開封シテ以テ裁決ヲ

下スモノトス

下院ハ上院ヨリ其議員ノ數一層多キモノトス則チ現今下院百九十八名上院百三十四名ナリ是レ同國ノ國憲ヲ以テ會計上ノ事ニ關シ下院ニ付與スルノ權上院ヨリモ多キニ居ル所ナリ尤モ下院ニ於テ斯ノ如ク權ヲ有スルハ獨リ豫算書ノ事ニ限り他ハ上院ト同權ナリ

凡ソ上下兩院ニ於テ投票スルハ總テ秘密ニ之ヲ行フモノトス政府ニ於テハ會計委員ヲ命任スルノ權ヲ有セズ又政府ノ委員タル者ハ會計委員集會ノ席ニ出ルヲ得サルモノトス

凡ソ會計委員タル者ハ獨リ上下兩院ノ命任スル所ニシテ他管廳ハ臺モ之ニ關係スルヲ得ズ是ヲ以テ常ニ會計委員ノ所見ハ即チ兩院衆議員ノ所見ト相同シキモノタリ尤モ前文ニモ述タル如ク公費ノ事ニ付

キ會計委員タル者ハ裁決ノ權ヲ有セサルモノニシテ唯査問ノ權アル而已

公費ノ事ニ付キ裁決ノ權ヲ有スルハ獨リ上下兩院ノ權内ニ屬スルモノトス但シ各院同權ニシテ各相別レテ之ヲ討論スルナリ若シ公金ノ取扱上ニ於テ陋習惡弊アルモ之ヲ知ルハ甚々難シトス是ヲ以テ會計委員ハ通常筆算上ニ於テ翌年ノ豫算書ヲ調査スル而已ナラス尙ホ前年間公金遣拂ノ諸帳簿ヲモ點檢スルモノトス但シ上下兩院ニテ其集會ノ初メニ際シ此等ノ帳簿調査ノ爲メ命任セル十二名ノ調査官前以テ之ヲ調査シ置クモノトス此十二名ノ調査官ハ兩院ヨリ六名ツ、ヲ差出シ以テ命任スルナリ

凡ソ上下兩院ニ於テ政府ヨリ申出ス所ノ豫算額ヲ許可スルトセザル

トハ全ク兩院ノ權内ニアルモノニシテ他ヨリ之ヲ如何トモスベカラザルモノ、如シ

毎年政府ヨリ豫算書ヲ差出スヤ其都度々々必ラス兩院ニ於テ多少之ニ變更ヲ加ヘスシテ許可スルコトナシ

抑瑞典國ノ歲出ハ歲月ト共ニ増加スルアルモ是迄歲入ノ増加セルモノヲ以テ常ニ能ク之ニ應スルヲ得タルハ(諸租稅ノ中賦課ノ法極メテ不同ナルモノ及ヒ苛刻ナルモノヲ減少セシコト屢ナルニ拘ハラズ)畢竟該國ノ人智速ニ發達シ隨テ殖産ノ道開ケ人民産業ヲ怠ラス以テ富國ニ至リシノ故ナリ

歐洲十ヶ國豫算論大尾

